



# 図書館だより

2026年  
10月23日発行

秋草学園高等学校 図書館

読書の秋！図書館では読書週間の展示や古雑誌市を企画しています。ぜひ図書館にいらしてください。

## パンどろぼう

『パンどろぼう』（柴田ケイコ/KADOKAWA/E-7-1）がNHKのテレビアニメになり、絵本界のエースからメディア界の風雲児となりました。2020年の発刊以来のファンは「わしが育てた」状態だと思います。

図書館では、既刊の「パンどろぼうシリーズ」を展示しています。そして、なんと、最新8冊目で衝撃の事実が暴露されています。ぜひご覧ください。

『パンどろぼうvsにせぱんどろぼう』（E-7-2）

『パンどろぼうとなぞのフランスパン』（E-7-3）

『パンどろぼうおにぎりぼうやのたびだち』（E-7-4）

『パンどろぼうとほっかほっカー』（E-7-5）

『パンどろぼうとりんごかめん』（E-7-6）

『パンどろぼうとスイーツおうじ』（E-7-7）

『パンどろぼうとさすらいラーメン』（E-7-8）

番外編：

『パンどろぼうのせかいいちおいしいパンレシピ』（吉永麻衣子(料理)/KADOKAWA/596.6-3）

『パンどろぼうのせかいいちかんたん子どもとつくるパンレシピ』（同前）

パンが主題だけに、パンも手作りしてしまおうということで、パンのレシピ本です。

原作の柴田ケイコさんは、パンがだぁ〜い好きなのだそうです。



## 読書週間

10月27日(火)～11月9日(月)は読書週間です。テーマは「静かだけど、冒険中。」 図書館に展示している一作を紹介します。

『ホビット 新版 ゆきてかえりし物語』（J.R.R.トールキン/原書房/B933-ト-1～2）

「冒険」と聞いて思い浮かぶのが『ホビットの冒険』（岩波書店/933-ト-1～2）。上記の新版は『ホビット』ですが、岩波の『ホビットの冒険』はもはや古典です。『指輪物語』（評論社/B933-ト-1～10）の前日譚です。

また、これらお話の映画『ホビット』『ロード・オブ・ザ・リング』は館内でDVD鑑賞できます。

『プロジェクト・ヘイル・メアリー』（アンディ・ウィアー/早川書房/933-ウ-1）

「静か」という主題からは、地球を救うためひとりで宇宙を進むこの本がぴったりです。その静けさは、怖いけど怖くないという妙な感覚で、「静か」にふさわしい本です。

## 新着コーナーの気になる本

『殺し屋の出世術』（野宮有/講談社/913.6-1）

今年の本屋大賞6位の『殺し屋の営業術』（同前）の続編です。引き続き、営業だけが生きがいの主人公が暴力集団の中で悪意のない悪を行う「反社会的」な内容です。倫理的に許されない行為(暴力と残虐)をたんと語っているのに、はらはらときどき+エンターテインメントです。フィクションですが私たちに「反社」を教えてください。

自分には関係ないと思っていても、今作は「2名のたまされた女性」に焦点があたっていて、「反社」を知識として知っておくべきだと思いました。

## 司書の今月はこの本読みました

本を読まない司書ですが、「英語力の低下」を防ぐためには「なにか読まなければ」ということで、今回英語多読本の伝記本の新作を読みました。このシリーズのタイトルのおもしろいところ(日本人にとってだけ?)は、存命の人は『Who Is ダレダレ?』、故人は『Who Was ダレダレ?』であることです。

『Who was David Bowie?』（Margaret Gurevich/ Penguin Workshop/837-W-B）を見つけ、「ああ、そうかデビッド・ボウイは亡くなっていたのかぁ」と思いつつ表紙イラストのデビッド・ボウイ扮するZiggy Stardust(ツアーライブに物語性を持たせた舞台上の人物、松平健のマツケンサンバ、小坂大魔王のピコ太郎のようなもの)に惹かれて手に取りました。知らない人の英語伝記を読むのは辛いですが、馴染みのある人のお話は読みやすいですね。

さて、タイトルについてもう一言。前号で汐見夏衛さんはタイトルが長いと文句をいいましたが、昔の本はタイトルが長いものが多いです。たとえば、『ガリバー旅行記』の正式タイトルは『船医から始まり後に複数の船の船長となったレミュエル・ガリバーによる、世界の諸僻地への旅行記四篇』です。タイトルはほぼあらずじです。【横関】

